

1. 日 時 1997年8月22日（金）10:30～11:45

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員  
日本原子力研究所  
吉川理事長、松浦副理事長、村上副理事長  
動力炉・核燃料開発事業団  
近藤理事長、須田副理事長、植松副理事長、井田理事、藤本理事  
（事務局等） 森口動力炉開発課長  
有本廃棄物政策課長  
政策課 山野、丸山  
動力炉開発課 藤吉、松浦  
研究技術課 石原  
日本原子力研究所  
田中企画室長、今井総務部長、田中人事部長、菊池財務部長  
数土総括調査役、田島総務課長、山根予算課長、企画室 草川  
動力炉・核燃料開発事業団  
田島秘書役、大和企画部長、坂本財務部長  
原子力調査室 松尾、杉本、新井

#### 4. 議 題

- （1）平成10年度原子力関係予算ヒアリングについて  
（日本原子力研究所、動力炉・核燃料開発事業団／新法人）
- （2）その他

#### 5. 配布資料

- 資料1 平成10年度組織・定員要求について（日本原子力研究所）  
資料2-1 動燃の抜本的改革と新法人設立のための平成10年度予算要求  
資料2-2 平成10年度動力炉・核燃料開発事業団／新法人 予算概算要求概要  
資料3 第55回原子力委員会定例会議議事録（案）

#### 6. 審議事項

- （1）平成10年度原子力関係予算ヒアリングについて  
（日本原子力研究所、動力炉・核燃料開発事業団／新法人）  
標記の件について、日本原子力研究所より資料1、科学技術庁より資料2-1、  
動力炉・核燃料開発事業団より資料2-2に基づき、説明があった。  
これに対し、委員より  
（日本原子力研究所に関して）  
・原子力開発については、多様性と集約性が求められるが、これまで前者の研究  
開発については原研が、後者については動燃が担ってきた感がある。今後、そ  
れぞれを異なる組織間でどのようにトランスファーしていくかが重要な課題  
・研究テーマについて、テーマの選定、研究期間を適切に判断し、研究者の士気  
を維持していくことが大切  
・大型の基礎研究、基盤技術の開発のため、原研にはこれまでに立派な設備が整  
備されてきており、大学や諸外国からの期待も大きい。今後は先端的な分野で  
成果を上げるための技術開発を進めてほしい

(動力炉・核燃料開発事業団／新法人に関して)

- ・ 動燃で開発した成果の展開が非常に大切であるとともに、外部の成果を、技術だけでなくノウハウも含めて受け入れる体制を整えることも重要
- ・ 本日説明いただいた平成10年度の予算要求に向けた考え方は、あくまでも過渡的なものと理解。今後オールジャパンとして検討を深めていくことが必要
- ・ FBRについても高速増殖炉懇談会で議論が進んでいるが、要素技術の開発を進めながら、国内外の研究開発のつながりを密接にしていかなければ開発自体が進まなくなってしまう
- ・ 改革を目に見えるように行うため、第三者的な評価機関から評価を受けるような工夫が必要
- ・ 予算要求については、政府予算案の編成に向け、今後の改革に係る検討を踏まえてフレキシブルに対応できるものであるべきと考える。このような考え方で、原子力関係予算の見積もりを行いたい

等の意見があった。

## (2) 議事録の確認

事務局作成の資料3第55回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。